



向陵広場

発行号 第84号
 発行日 令和3年11月24日(水)
 発行元 向陵編集校友会
 責任者 伊藤有司 (県商10回卒)

練習に精進した賜物 橘 仁美 県商 42 回卒 (平成 5 年 3 月)

2021 年 (令和 3 年) 11 月 17 日 (水曜日) 中日新聞 東三河版 記者 斎藤徹

努力と感謝の 七段合格

剣道 橘さん 豊橋の女性で初



剣道を始めたのは豊橋市 東部中学校一年の時。剣道部に所属しながら、三年の時に豊橋南部剣友会に入会した。当時豊橋商業高校の外部指導員を務め、昨年八月に亡くなった故牧野登さん(範十七段、享年九十八)の誘いを受けて同校に進学。牧野さんの指導の下、

竹刀を鋭く振り下ろすと、ヒュンと風を切る音が道場に響く。豊橋市の豊橋南部剣友会に所属する橘仁美さん(四七)は同市弥生町が名古屋市であった昇段審査で剣道七段に合格した。女性剣士の七段は豊橋市では初めてで、東三河でも二人目。「今まで稽古をつけてくれた先生方に感謝し、精進していきたい」と話した。

(斎藤徹)



①剣道の面を着用する橘さん
 ②稽古で面を打ち込む橘さん
 =いずれも豊橋市北山町で

長時間、連続で相手に技を打ち込む「かかり稽古」という練習を繰り返し、足腰を鍛え上げた。学校の後に道場の稽古を終えると夜遅くなるため、家族が迎えに来た。重い防具を自転車に乗せて一緒に歩いて帰宅。雨の日は同級生の家族が車で送ってくれ



と剣を交え、技を磨いた。母校の豊橋商業高校にも出向き、高校生の激しい動きに対応できるように敏しように性を保持し続けた。

五月に名古屋市であった七段審査には、全国から五百八十八人が訪れた。試合形式の実技を二度繰り返し、通過すると十種類の形の審査へ。合格率は20%ほどで、幾度も挑戦を繰り返す剣士が多い中、橘さんは一発で合格した。「コロナという難しい状況で、欲を出さなかったことがよかったかもしれない」と笑顔を見せた。

今後、十年間、稽古に励むと、最高位となる八段の受験資格を得る。だが昨年度の八段審査は、計千五百六十一人が受験し、合格者はわずか十人。女性の合格者はいまだゼロだ。「八段なんて恐れ多いけど、十年後に女性が受けられるような環境になっていたら挑戦したい」と決意を述べた。